

学校の教育目標 **進んで学び 心豊かで 元気な児童の育成**

評価段階 4・・・よくできている(頻繁に行っている) 3・・・だいたいできている(かなり行っている) 2・・・あまりできていない(時々行っている) 1・・・できていない(ほとんど行っていない)

3.6・・・90% 3.2・・・80% 3.1以下・・・79%以下

重点目標	実践事項	自己評価(平均)				R4 (全体)	分析・考察(○) 改善策(☆)	学校運営協議会の意見	学校運営協議会評価	
		児童	教師	保護者	平均					全体
【 確かな学力の定着 】 「進んで学ぶ子」	日常授業の改善	・文章や問題の読解力を鍛える授業の工夫	3.2	2.8	3.5	3.2	○教師の読解力を鍛える授業の工夫が評価が低いのは、読解力そのものの認識不足、具体的手立ての共通理解が図られていない、読解力の向上には時間を要する等の理由が考えられる。 ○主体的・対話的な深い学びについては、学年によって個人差が大きく、どうしても個別指導に重点が置かれる場面が多いために、「対話的な学び」については十分な指導ができていなかった。 ○対話的な学びには席の配置やグループ編成等を十分に配慮していくことが肝要である。 ○学力の個人差が大きく、中々深い学びへの転換が図れていない。また、自分に自信がなく、自己主張が苦手な児童が多い。 ☆一般的な概念にとらわれない、茶小の児童に即した指導法を柔軟に考えてもよいのではないだろうか。児童相互だけでなく、教師との対話も「対話的な学び」に含めて検討することも必要ではないか。 ☆日々の授業を振り返り、改善に努める。今後も本校の特色を生かした個に応じた指導を心がける。 ☆今後より一層アウトプット型の授業に転換していく必要がある。	・少人数の小学校から中学校へ進学する時に、自己のアピール力やテストや学校生活の中での競争力の違いを感じる。タブレットを使うことによって言葉での発信力の場が減るのではと心配な場面もありますが、活用することで読書の時間や内容が充実でき、読解力が身につくことに期待できそう。 ・特設校として、先生方が色々と工夫されたり努力されたりしている。 ・少人数とはいえ、個々の違いや複雑な背景をもつ子供たちも増え、指導は大変だと思うが、これからは伸び伸びとした茶小の子のため、頑張ってほしいと思う。 ・読書については、保護者が家庭教育学級等で読み聞かせの研修を行っている学校もある。	3.2	
		・4+4のチェックポイントを基盤とした授業の構築	3.2	2.9	3.1	3.3				
		・個人思考を深めていくための学び合いの工夫	3.4	3.2	3.7					3.4
		・主体的・対話的で深い学びへの転換	3.3	2.8	3.1					3.1
		・ICTを活用した授業改善	3.4	3.4	3.5					3.4
	・かがやきタイムを活用した徹底指導	3.4	3.0	3.2	3.2					
	基礎的・基本的学習内容の定着	・読書の推奨	2.9	3.2	2.5	2.9				
特別支援教育の充実		3.6	3.7	3.7	3.7					
一貫教育の推進と外部との連携	・地域素材や地域人材の活用及び外部との連携	3.4	3.8	3.6	3.6					
【 心の豊かな子 】 「心豊かな子」	基本的生活習慣の定着	・素早く静かな廊下歩行	2.9	2.4	2.7	☆廊下指導については、日々その都度指導していく必要がある。 ○気持ちの良い挨拶がどのようなものか認識できていないから挨拶や場に応じた言葉遣いができていないのではないか、あいさつに限らず、返事や反応がいいとはいえない。全体的に受け身になっている実態がある。学校の雰囲気にも関わってくるので、徹底した指導が必要だと思う。 ☆あいさつの指導は、大人がまずお手本を見せる必要があると考える。職員全体で共通理解していきたい。 ○使った後の整理整頓の児童評価がかなり高いが、片付けるものを限定した質問であるために教師との意識の差があるのではないか。 ○使った後の整理整頓の項目は、学校では教師の声掛け等で整理整頓が割合とできているが、家庭では定着していない実態が予測できる。 ☆児童がよく利用する道具や場において具体的に直接指導をする時間を設けることで、児童の意識を高めていけるのではないか。 ☆清掃について、児童の意識は高いが、実際の様子を見ると義務的にやっている感じがして心磨きという点では疑問が残る。また、無言清掃がほとんどで、清掃の仕方について清掃場所ごとに指導する時間を設けるようにしてはどうか。 ○教師側が温かい言葉かけを意識し、人を傷つけるような言動を見逃さず、指導し続けていくことが大切である。 ○登下校指導の徹底で、教師の評価が低いのは、繰り返し指導はするが改善がなかなか図られないことが原因と考えられる。	3.2			
		・先取りあいさつや場に応じた言葉遣い	3.5	2.3	3.0					
		・清掃活動による学校磨きと心磨き	3.6	2.9	3.3					
		・使った後の整理整頓	3.6	3.0	2.5			3.0		
	いじめのない学校づくり	・全教師が全児童に「かかわる」 ・迅速な実態把握(心タイム)	3.6	3.7	3.7			3.7		
		・温かな言葉遣いを意識した学校生活	3.5	2.9	3.5			3.3		
	規範意識・安全意識の向上	・登下校指導の徹底(集団登下校)	3.6	2.7	3.4			3.2		
・交通安全及び防災教育の充実		3.5	3.2	3.4	3.4					
【 たくましい元気な子 】 「元気が子」の育成	基礎体力の向上	・運動時間を保障した体育科授業の充実	3.6	3.4	3.6	3.5	○基本的生活習慣が定着している家庭とそうでない家庭との差が大きいかとがる。 ○本校児童の苦手とする分野を高める必要があるが、体育の授業の目標は、体力テストの数値を上げるために行っているものではない。 ○今年度、昼休み運動場で子どもと一緒に遊ぶ先生がいることが、子どもの体力向上に大きく寄与していると感じる。 ○児童は歯磨きをしているかしていないかで評価をしているため、保護者や教師との評価に差があると考えられる。 ○衛生に関する知識が少ないのではなく、知識はあるが自分自身の衛生状態に頓着がない児童がいるように感じる。 ☆正しい歯磨きを定着していくため、学校保健委員会等を活用して日常的な指導や家庭でも協力をしてもらえるような取組に努めていく必要がある。 ☆給食の時間をもう少しとることができたら結果が変わってくるのではないか。(歯みがき・食育) ☆子どもの話によると就寝時間が遅い子が多いようだ。各家庭に粘り強く啓発を行ってほしい。	3.2		
		・体力テストの結果を受けた指導及び個別指導の充実	2.7	2.7	2.7					
	健康教育の充実	・生活の中でできる運動の推奨(ちよこっとう運動等) ・昼休みの外遊びの奨励	3.3	3.3	3.3	3.3				
		・基本的な生活習慣の定着 (早寝・早起き、朝ごはん、手洗い・うがい等)	3.2	2.9	3.2	3.2				
		・歯みがき指導・歯の衛生に関する啓発	3.6	3.2	2.9	3.2				
		・食育指導の推進の充実	3.1	3.2	3.1	3.1				
校内安全教育の充実	・性に関する指導の充実	3.0	3.0	3.0	3.0					
	・定期的な安全点検の徹底と確実な改善 ・校内安全指導の推進	3.5	3.3	3.3	3.4					
と家庭連携 地域社会	家庭及び友愛園における家庭学習の見届け	3.4	2.9	2.5	2.9	☆「何のために宿題をするのか」家庭学習の意味や意義を今一度保護者と考えていく必要がある時代がきたと感じている。 ○みどりの少年団を中心に、学級園の花を種から育てる活動に挑戦した。また、担当の熱心な取組を受け、学級園の水遣りや除草等、子ども達の自主的な動きも見られ始めている。 ○今年度は昨年度よりも天心館の職員との連携がうまくいっているように感じる。本年度、天心館を会場に情報交換会を実施でき、大変有意義であった。今後もきめ細やかな情報交換を行ってほしい。	2.9			
	みどりの少年団による地域への貢献	3.2	3.2	3.2						
	保護者(友愛社)や地域との連携及び地域の福祉施設(菜花園、保育園等)との連携	3.6	3.6	3.6						
保育園との計画的な交流	・学校、学級便り、HPの効果的な活用	3.5	3.8	3.7	3.7					
【保護者自由記述欄】 ○ 茶小で良かったです。 ○ いつも本当にありがとうございます。特性のある娘の対応、いつも細やかにありがとうございます。朝、普通に起きて準備して学校に向かうという他のお子さんでは当たり前のことが、なかなか難しい子だったので、本当に本当にありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。										